

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催フィールド言語学ワークショップ

第16回文法研究ワークショップ  
研究発表のアブストラクトを考え直す  
開催のお知らせ・募集要項

「文法研究ワークショップ」は、記述言語学を志す学生や研究者が最新の研究成果や調査データを紹介しあうことにより、学生・研究者の交流や、情報共有を行なうことを目的としたワークショップです。

今回は研究成果や調査データの紹介ではなく、研究成果を公表する際の「要旨」について考えてみたいと思います。主要な学会では、発表希望者が発表の申し込みをする際に、その発表の要旨を送り、それが審査され、採択されたものだけが発表できるようになっています。どれほど素晴らしい研究内容であっても、それが要旨によって審査員に伝わらなければ採択されません。それでは、どのような要旨が「良い」もので、「伝える」要旨なのでしょうか。

このワークショップでは、模擬的な審査を通し、良い要旨とはどういうものか、逆に悪い要旨はどこが悪いのかを学び、それによって、受講者の要旨をより良いものにすることを狙いとします。

これから学会発表を申し込みたいと考えているひと、自分の研究は十分おもしろいと思えるのに、何故か発表申し込みで不採択になり、その理由が分からないひと、あるいは、ただ単により良い要旨が書けるようになりたいひとの応募をお待ちしています。

記

1. 開催日時：2019年12月11日（水）13:00～16:00
2. 開催場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA研）304室
3. プログラム（予定）：  
講師：渡辺己（AA研）  
使用言語：日本語
  - (1) 学会発表申し込み要旨の審査の様子
  - (2) 要旨を審査してみる
  - (3) 悪い要旨，良い要旨
  - (4) まとめ：理想の要旨注意：受講申込者には、模擬要旨を2, 3点、審査のガイドラインとともに事前にご送りますので、当日までに「審査」をしてきてください。

4. 参加資格：記述言語学分野の学生（修士課程在籍以上）を原則とします。（学部生の方は下記連絡先までお問い合わせください。）

5. 定員：20名程度

6. 参加申込方法：下記 URL にアクセスして、専用フォームからお申し込みください。折り返し自動返信メールが届きますので、ご確認ください。なお、右記 QR コードからでも同じページにアクセスできます。



[https://lingdy.aa-ken.jp/activities/training-  
ws/191211-flws-gram](https://lingdy.aa-ken.jp/activities/training-<br/>ws/191211-flws-gram)

7. 申込締切：2019年12月6日（金）正午（ただし定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください）

8. 問い合わせ先：「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」事務局 [info-lingdy\[at\]aacore.net](mailto:info-lingdy[at]aacore.net)（[at]を@に変えて送信ください）

9. その他：ワークショップは日本語でおこないます。  
参加は無料です。

※ご不明な点がございましたら、上記「8. 問い合わせ先」までご連絡ください。

※過去の文法研究ワークショップにつきましては、

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/fieldling-ws/grammar-wr-ws> をご覧ください。

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」

以上